

# 自己評価票

- 自己評価は全部で100項目あります。
- これらの項目は事業所が地域密着型サービスとして目標とされる実践がなされているかを具体的に確認するものです。そして改善に向けた具体的な課題を事業所が見出し、改善への取り組みを行っていくための指針とします。
- 項目一つひとつを職員全員で点検していく過程が重要です。点検は、項目の最初から順番に行う必要はありません。点検しやすい項目(例えば、下記項目のⅡやⅢ等)から始めて下さい。
- 自己評価は、外部評価の資料となります。外部評価が事業所の実践を十分に反映したのものになるよう、自己評価は事実に基づいて具体的に記入しましょう。
- 自己評価結果は、外部評価結果とともに公開されます。家族や地域の人々に事業所の日頃の実践や改善への取り組みを示し、信頼を高める機会として活かしましょう。

## 地域密着型サービスの自己評価項目構成

	項目数
I. 理念に基づく運営	22
1. 理念の共有	3
2. 地域との支えあい	3
3. 理念を実践するための制度の理解と活用	5
4. 理念を実践するための体制	7
5. 人材の育成と支援	4
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援	10
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応	4
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援	6
III. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント	17
1. 一人ひとりの把握	3
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し	3
3. 多機能性を活かした柔軟な支援	1
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働	10
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援	38
1. その人らしい暮らしの支援	30
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり	8
V. サービスの成果に関する項目	13
合計	100

## ○記入方法

### [取り組みの事実]

ケアサービスの提供状況や事業所の取り組み状況を具体的かつ客観的に記入します。(実施できているか、実施できていないかに関わらず事実を記入)

### [取り組んでいきたい項目]

今後、改善したり、さらに工夫を重ねたいと考えた項目に○をつけます。

### [取り組んでいきたい内容]

「取り組んでいきたい項目」で○をつけた項目について、改善目標や取り組み内容を記入します。また、既に改善に取り組んでいる内容・事実があれば、それを含めて記入します。

### [特に力を入れている点・アピールしたい点](アウトカム項目の後にある欄です)

日々の実践の中で、事業所として力を入れて取り組んでいる点やアピールしたい点を記入します。

## ○用語の説明

家族等 = 家族、家族に代わる本人をよく知る人、成年後見人などを含みます。

家族 = 家族に限定しています。

運営者 = 事業所の経営・運営の実際の決定権を持つ、管理者より上位の役職者(経営者と同義)を指します。経営者が管理者をかねる場合は、その人を指します。

職員 = 管理者および常勤職員、非常勤職員、パート等事業所で実務につくすべての人を含みます。

チーム = 管理者・職員はもとより、家族等、かかりつけ医、包括支援センターの職員等、事業所以外のメンバーも含めて利用者を支えている関係者を含みます。

## ○評価シートの説明

評価調査票は、プロセス評価の項目(No.1からNo.87)とサービスの成果(アウトカム)の項目(No.88からNo.100)の2種類のシートに分かれています。記入する際は、2種類とも必ず記入するようご注意ください。

事業所名	グループホームゆうゆう
(ユニット名)	ユニット1・2
所在地 (県・市町村名)	大阪府泉南市信達市場394-1
記入者名 (管理者)	岡本恵子
記入日	平成20年10月3日

# 地域密着型サービス評価の自己評価票

(  部分は外部評価との共通評価項目です )

取り組んでいきたい項目

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
<b>I. 理念に基づく運営</b>			
1. 理念と共有			
1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	重要事項説明書で、ホームの運営方針として「家庭的な環境と地域住民との交流のもとで、尊厳ある自立した日常生活を営むことを支援する」と明記し、リビングの壁に「仲良く・楽しく・自分らしく」と平易な言葉で、ホームの理念を掲げている。また、職員間では、地域に必要とされる施設を目指すことを理念としている。	
2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	常に、ホーム内の会議で、その人らしく暮らしていただくためにどのような介護をすべきかという視点で話し合いを持ち、ホームでの生活を楽んでもらえるよう、外出機会もできるだけ持つようにし、本人ができること、好きなことを支援する介護を心がけている。	
3	○家族や地域への理念の浸透 事業所は、利用者が地域の中で暮らし続けることを大切にしたい理念を、家族や地域の人々に理解してもらえよう取り組んでいる	地域の行事(敬老会・盆踊り・小学校の運動会・地域のイベント)に積極的に参加したり、ホームでの催し(朗読・手芸)に地域の人に参加していただけるよう声をかけたりして、地域に溶け込むように努力している。	
2. 地域との支えあい			
4	○隣近所とのつきあい 管理者や職員は、隣近所の人と気軽に声をかけ合ったり、気軽に立ち寄ってもらえるような日常的なつきあいができるように努めている	自治会に参加し、回覧板をまわしたり、地域の行事の案内をもらったりしている。	
5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	様々なボランティアや外部研修の受け入れ、また、地域の行事にも積極的に参加している。	

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
6	○事業所の力を活かした地域貢献 利用者への支援を基盤に、事業所や職員の状況や力に応じて、地域の高齢者等の暮らしに役立つことがないか話し合い、取り組んでいる	手芸や朗読の会のときに、地域の独居老人にも来ていただくように努めている。		
3. 理念を実践するための制度の理解と活用				
7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	職員間の風通しはよく、自己評価や外部評価の結果をカンファレンスで話し合い、サービスの質の向上につなげる努力をおこなっている。		
8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	構成員は、おおむね利用者家族、泉南市介護保険課、地域包括支援センター、自治会の方で、スライドによるホームでの生活の報告、家族からの質問や要望をお聞きするようにしている。また、介護の中で気付いたことを発表し、認知症介護の知識やノウハウを蓄積するよう努めている。		
9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	地域包括支援センターの「地域連携推進委員会」、ケアマネージャーの会「南泉州介護ネット」に参加して、より良い事業所運営を行なうことができるよう、情報収集に努めている。また、泉南市ほっと介護相談員を受け入れ、サービスの質の向上につなげるようにしている。		
10	○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、地域福祉権利擁護事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、必要な人にはそれらを活用できるよう支援している	管理者や職員は、成年後見制度の研修を受け、また、社会福祉協議会の中に、権利擁護の相談窓口があるので、必要に応じて、相談している。		
11	○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内で虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	カンファレンスで、当ホームが身体拘束ゼロを目指していることを常に確認し、利用者の問題行動は、全員で話し合って早期に対策を立て、解決するようにし、虐待につながらないように努めている。		

項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
12	<p>○契約に関する説明と納得</p> <p>契約を結んだり解約をする際は、利用者や家族等の不安、疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている</p>		
13	<p>○運営に関する利用者意見の反映</p> <p>利用者が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている</p>		
14	<p>○家族等への報告</p> <p>事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている</p>		
15	<p>○運営に関する家族等意見の反映</p> <p>家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている</p>		
16	<p>○運営に関する職員意見の反映</p> <p>運営者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている</p>		
17	<p>○柔軟な対応に向けた勤務調整</p> <p>利用者や家族の状況の変化、要望に柔軟な対応ができるよう、必要な時間帯に職員を確保するための話し合いや勤務の調整に努めている</p>		
18	<p>○職員の異動等による影響への配慮</p> <p>運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている</p>		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
<b>5. 人材の育成と支援</b>			
19	<p>○職員を育てる取り組み</p> <p>運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている</p>	<p>外部研修の受講者は、カンファレンスなどで、研修内容を他の職員に伝達している。ベテランの職員が、職務内容をきちんと伝達するようにしており、一人ひとりの利用者への対応の仕方なども、詳しく伝達するようにしている。</p>	
20	<p>○同業者との交流を通じた向上</p> <p>運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている</p>	<p>泉南市内の地域密着型施設が集まって、意見交換をする場があり、相互訪問などもおこなっている。サービスの質の向上につなげていきたい。</p>	
21	<p>○職員のストレス軽減に向けた取り組み</p> <p>運営者は、管理者や職員のストレスを軽減するための工夫や環境づくりに取り組んでいる</p>	<p>1年に2回、食事会を開催し、親睦を深める機会を持つようにしている。福利厚生として、金銭面で支援している。</p>	
22	<p>○向上心を持って働き続けるための取り組み</p> <p>運営者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、各自が向上心を持って働けるように努めている</p>	<p>給与面で、ベースアップを取り入れ、ボーナスの支給、退職金制度の加入、また、残業を極力しないですむように、職場環境を整え、その方針を運営側からも職員に伝えるようにしている。</p>	
<b>II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>			
<b>1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応</b>			
23	<p>○初期に築く本人との信頼関係</p> <p>相談から利用に至るまでに本人が困っていること、不安なこと、求めていること等を本人自身からよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている</p>	<p>言葉でのコミュニケーションも難しくなっている人が多いので、寄り添いながら、本人の望んでいることを理解していくように努めている。</p>	
24	<p>○初期に築く家族との信頼関係</p> <p>相談から利用に至るまでに家族等が困っていること、不安なこと、求めていること等をよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている</p>	<p>相談に来られた段階で、ご家族から、事情を詳しくお聞きするようにしている。また、これまで、大変であったにちがいない状況を理解し、ご家族の気持ちに寄り添うように努めている。</p>	

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
25	○初期対応の見極めと支援 相談を受けた時に、本人と家族が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	地域性か、要介護度が重い人の相談が多く、症状の軽い人が少ない。もちろん、在宅が続けられるようであれば、デイサービスやショートステイの利用をアドバイスするようにしている。		
26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	職員や他の利用者と一緒に食事をすると、美味しいと喜んでいただけることが多く、安心されるようです。自分が理解されていると感じられるよう、アットホームな雰囲気でお面することを大事にしている。		
<b>2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援</b>				
27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	本人の好きなことや出来ることは何か、まず見極めて、やれることはお願いしてやってもらう。畑のことなど、教えてもらうことも多い。また、一緒に外出したり、一緒にご飯を作って食べる中で、自然に家族のような関係が築けている。		
28	○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、喜怒哀楽を共にし、一緒に本人を支えていく関係を築いている	ご家族が来られた時に、これまでのことを詳しくお聞きしたり、ホームでの様子を詳しくお伝えするようにし、一緒に支えていく気持ちを持つように努めている。		
29	○本人と家族のよりよい関係に向けた支援 これまでの本人と家族との関係の理解に努め、より良い関係が築いていけるように支援している	ご家族が来られた時は、湯茶の接待や、ゆっくり話せる環境を作るようにしている。ホームでの様子を伝え、不安や心配なことがないか、お聞きするようにしている。		
30	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	法事やお彼岸、知人・家族のお葬式への出席を支援している。必要に応じて送り迎えをしたり付き添ったりする。		
31	○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるように努めている	利用者同士の関係を把握し、仲が良い場合は、問題はないが、コミュニケーションが上手くできない場合は、職員が中に入って和やかに過ごしていただけるよう配慮している。		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
32	○関係を断ち切らない取り組み サービス利用(契約)が終了しても、継続的な関わりを必要とする利用者や家族には、関係を断ち切らないつきあいを大切にしている	死亡による契約終了が大半であるため、継続した関わりの必要性がない場合が多いが、必要とされる場合には、誠心誠意対応したい。		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>				
1. 一人ひとりの把握				
33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	介護計画を見直すときに、本人の希望や意向を個別にお聞きするようにしている。また、毎日の生活の中でも、本人の希望を感じ取るよう常に職員間で情報をやり取りしている。言葉で伝えることが難しい利用者もあるが、本人の立場にたって、検討するよう努めている。		
34	○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居時にこれまでの暮らしや好きなこときらいなこと、食べ物の好き嫌いなども詳しくお聞きするようにしている。		
35	○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状を総合的に把握するように努めている	日常の業務の中で、現場の職員が気づき・情報・意見を出し合い、常に一人ひとりの利用者の状態を把握するように努めている。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し				
36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	日常の業務の中で、また、毎月のカンファレンスで、現場職員の気づき・情報・意見を出し合い、介護計画の内容に反映させ、ケアマネージャーによってチェックされている。必要に応じて、家族にも説明・相談し、同意を得ている。		
37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	状態が変化した際には、また、家族の不安になっていること等の意向・要望も確認し、随時実情に応じたケアに繋がるように介護計画を検討し、見直しをしている。		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
38	○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	毎日、午前・午後・夜間について、個別に業務日誌に記録し、情報を共有しながら、また、特に、把握しておかなければいけない伝達事項は、別のノートに記録して、職員全員が情報を共有し、介護に活かしている。		
<b>3. 多機能性を活かした柔軟な支援</b>				
39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	通院の付き添い、葬儀や法事などの外出支援、家が気になるという利用者には、付き添って自宅を確認したり等、積極的におこなっている。		
<b>4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働</b>				
40	○地域資源との協働 本人の意向や必要性に応じて、民生委員やボランティア、警察、消防、文化・教育機関等と協力しながら支援している	地域の敬老会や小学校の運動会、文化祭・サークル活動への参加など、ボランティアにも協力していただいて、積極的におこなっている。		
41	○他のサービスの活用支援 本人の意向や必要性に応じて、地域の他のケアマネジャーやサービス事業者と話し合い、他のサービスを利用するための支援をしている	脳梗塞の急性期などに、訪問看護や訪問リハビリを受け入れ、利用しているが、それ以外は、特に必要性を感じない。		
42	○地域包括支援センターとの協働 本人の意向や必要性に応じて、権利擁護や総合的かつ長期的なケアマネジメント等について、地域包括支援センターと協働している	地域の中で、問題を抱えているケースについて、地域包括支援センターと協働して、問題の解決に参加する場合がある。		
43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	歩行困難な利用者が増えるに従い、協力医療機関の往診回数が増えてきているが、できるだけ、これまでのかかりつけ医の診療を受けられるように支援している。		



項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
44	<p>○認知症の専門医等の受診支援</p> <p>専門医等認知症に詳しい医師と関係を築きながら、職員が相談したり、利用者が認知症に関する診断や治療を受けられるよう支援している</p>		
45	<p>○看護職との協働</p> <p>利用者をよく知る看護職員あるいは地域の看護職と気軽に相談しながら、日常の健康管理や医療活用の支援をしている</p>		
46	<p>○早期退院に向けた医療機関との協働</p> <p>利用者が入院した時に安心して過ごせるよう、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて連携している</p>		
47	<p>○重度化や終末期に向けた方針の共有</p> <p>重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している</p>		
48	<p>○重度化や終末期に向けたチームでの支援</p> <p>重度や終末期の利用者が日々をより良く暮らせるために、事業所の「できること・できないこと」を見極め、かかりつけ医とともにチームとしての支援に取り組んでいる。あるいは、今後の変化に備えて検討や準備を行っている</p>		
49	<p>○住み替え時の協働によるダメージの防止</p> <p>本人が自宅やグループホームから別の居所へ移り住む際、家族及び本人に関わるケア関係者間で十分な話し合いや情報交換を行い、住み替えによるダメージを防ぐことに努めている</p>		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>			
1. その人らしい暮らしの支援			
(1)一人ひとりの尊重			
50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	人前で本人を傷つけないように、目立たず、さりげない声かけをするよう、心がけている。申し送りは、利用者の前では行わず、事務所内で行なうようにしている。ミーティングで職員の意識向上を随時図っている。	
51	○利用者の希望の表出や自己決定の支援 本人が思いや希望を表せるように働きかけたり、わかる力に合わせた説明を行い、自分で決めたり納得しながら暮らせるように支援をしている	その日に着る服を自分で選んでもらったり、どうしたいか、常に職員が話しかけて希望を聞くように努めている。	
52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	起床時間、食事時間、入浴時間などの反復的な日課においては、個人のペースを守りながら、共同生活との調和を図り、一日の生活リズムを作っている。買い物・散歩など、一人ひとりの状態や思いに配慮しながら対応している。	
(2)その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援			
53	○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援し、理容・美容は本人の望む店に行けるように努めている	理美容院は、本人の望む店に行けるようにしている。服も自分で選べるように、職員が付き添って、買いに行くこともあります。	
54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	台所・リビングは広く、アイランド・キッチンなので、利用者が参加しやすい。お米を研いだり、テーブルの準備など手伝ってもらったり、食材の購入に一緒に出かけたりしている。	
55	○本人の嗜好の支援 本人が望むお酒、飲み物、おやつ、たばこ等、好みのもを一人ひとりの状況に合わせて日常的に楽しめるよう支援している	たばこは、火災の危険もあり、また、利用者もこれまで喫煙していないこともあって、喫煙する人はいません。飲み物やおやつは、ご家族が持ってこられたり、利用者が外出時に購入したりしています。また、誕生日などは、その利用者におやつを決めてもらっています。	

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
56	○気持よい排泄の支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして気持ちよく排泄できるよう支援している	排尿や排便のリズムを把握し、トイレ誘導するようにしている。		
57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	1日あたり5名程度は、入浴できるので、本人の希望で回数を多く入る人もあれば、あまり入浴したくない人もいます。その場合は、足浴や清拭で清潔保持に努めています。一人ひとりゆっくりはかれるように時間をとっています。		
58	○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、安心して気持ちよく休息したり眠れるよう支援している	一律に消灯時間は決めずに、その時々状況にまかせています。ゆっくりテレビを見ている人もいれば、なかなか眠れず、リビングで職員と過ごす人もあり、早くに眠る人もいます。		
<b>(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援</b>				
59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	掃除、洗濯物干しや洗濯物たたみ、花の水やり、畑の世話、台所の手伝い、買い物、理美容院の利用など、職員と一緒に、楽しみになっている。毎月1回ずつ喫茶の日と外食の日を設けている。		
60	○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	自分でお金を持っている人は少ないですが、お金を持っておきたい人もいますので、そのようにしています。ただ、他の利用者にお金をあげたりすることもあり、できるだけ職員が気をつけるようにしています。		
61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	お花見や敬老会、文化祭など季節に合わせて積極的に外出するように努めている。買い物などにもよく出かけている。また、毎月1回、全員で外食、喫茶を楽しむ日を設けており、利用者の楽しみになっている。		
62	○普段行けない場所への外出支援 一人ひとりが行ってみたい普段は行けないところに、個別あるいは他の利用者や家族とともに出かけられる機会をつくり、支援している	家族との外出は自由なので、家族と食事を楽しんで帰ってこられる利用者もあります。買い物などは、利用者ごとに個別に対応しています。		

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
63	○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	ご家族から手紙が来ると、何度も読み返しておられます。ただ、自分で手紙を書くことが出来る利用者はいません。なんとか、年賀状は職員が支援して出してもらおうようにしています。電話は事務所の電話を使うことができます。		
64	○家族や馴染みの人の訪問支援 家族、知人、友人等、本人の馴染みの人たちが、いつでも気軽に訪問でき、居心地よく過ごせるよう工夫している	ご家族や友人が来られた時は、湯茶の接待をして、お部屋でゆっくり過ごしてもらおうようにしています。		
<b>(4)安心と安全を支える支援</b>				
65	○身体拘束をしないケアの実践 運営者及び全ての職員が「介護保険法指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、身体拘束をしないケアに取り組んでいる	「身体拘束ゼロ宣言」のマニュアルを手元において、実践している。		
66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	利用者の安全確保のため、一応、出入り口の鍵はかけている。誰でも簡単に開けることができる鍵なので、利用者が外に出たい様子の時は、職員が付き添って出るようにしている。居室の鍵は、本人はかけることがあっても、職員がかかることはない。		
67	○利用者の安全確認 職員は本人のプライバシーに配慮しながら、昼夜通して利用者の所在や様子を把握し、安全に配慮している	小規模なので、特に問題はありません。また、日中、利用者は、リビングで過ごしていることが多く、様子を把握しやすい。		
68	○注意の必要な物品の保管・管理 注意の必要な物品を一律になくすのではなく、一人ひとりの状態に応じて、危険を防ぐ取り組みをしている	日常普通にあるものは、普通に置いています。洗剤などは注意していますが、その他は、特にこれといって、これまで問題はありません。もし、問題があるようであれば、職員間で情報を共有し、取り除くようにしようと思います。		
69	○事故防止のための取り組み 転倒、窒息、誤薬、行方不明、火災等を防ぐための知識を学び、一人ひとりの状態に応じた事故防止に取り組んでいる	転倒については、相当、歩行不安定な場合は、小さな鈴などを利用して、動きがわかるようにしている。それ以外は、小規模施設のためあまり問題にならない。以前、かなりの距離を歩ける人の場合は、GPS装置を検討したこともあります。		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
70	○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備え、全ての職員が応急手当や初期対応の訓練を定期的に行っている	小規模施設で、血圧や体温も毎日測定し、目がよく行き届くためか、利用者の体調が少し悪くなった時点で対応しているので、特に必要を感じない。のどに食べ物を詰めた時、どのように対応するか、は職員同士で話し合っている。		
71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	地域の防災会議などに参加し、ホームとして地域に貢献できることは何か、どのように行動すべきかを考え、また、地域の人々の協力もお願いするようにしている。年2回、消防署の協力を得て、避難方法の確認、消火器の使い方などの消防訓練をしている。		
72	○リスク対応に関する家族等との話し合い 一人ひとりに起こり得るリスクについて家族等に説明し、抑圧感のない暮らしを大切にした対応策を話し合っている	利用者の状況をきめ細かく伝え、リスクを回避するために、ホームがどのように対応しているか、わかっていたら説明するようにしている。		
(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援				
73	○体調変化の早期発見と対応 一人ひとりの体調の変化や異変の発見に努め、気付いた際には速やかに情報を共有し、対応に結び付けている	血圧・体温・排便状況は、毎日、記録して、職員がすぐわかるようになっている。また、ミーティングで、体調の気になる利用者については、引継ぎで情報を伝えている。		
74	○服薬支援 職員は、一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	施設長が薬剤師のため、折りに触れて、職員に薬の目的などについて説明をおこない、副作用のチェックや飲み合わせ、用量のチェック、病状の変化の確認などをおこなっている。		
75	○便秘の予防と対応 職員は、便秘の原因や及ぼす影響を理解し、予防と対応のための飲食物の工夫や身体を動かす働きかけ等に取り組んでいる	排泄を丁寧に記録し、特に便秘には、気を配っている。服薬管理だけでなく、動いてもらうよう促したり、マッサージをおこなっている。食事も芋や豆・大根などの野菜を多く使用するようにしている。		
76	○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や力に応じた支援をしている	一人ひとりに合った支援をするよう、心がけている。特に夜は、丁寧にケアし、入れ歯をしている場合は、取り外して、洗浄している。		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事の摂取状況は、毎日チェック表に記録し、職員は相互に状況把握している。水分補給は、絶えず、定期的に飲水量を確認して、一人ひとりにあった支援をするように工夫している。		
78	○感染症予防 感染症に対する予防や対応の取り決めがあり、実行している(インフルエンザ、疥癬、肝炎、MRSA、ノロウイルス等)	マニュアルを見やすい場所に置き、職員が参考にできるように、備えている。マスクは常備し、咳のある利用者に着用してもらうようにしている。		
79	○食材の管理 食中毒の予防のために、生活の場としての台所、調理用具等の衛生管理を行い、新鮮で安全な食材の使用と管理に努めている	職員は、常に、まな板やふきんを消毒して、真っ白な状態です。台所も皆きれいに使っています。お米は直接農家から買っていますし、お魚も地域の魚屋さんで地魚を仕入れています。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり				
(1)居心地のよい環境づくり				
80	○安心して出入りできる玄関まわりの工夫 利用者や家族、近隣の人等にとって親しみやすく、安心して出入りができるように、玄関や建物周囲の工夫をしている	玄関周りには、花を植え、周囲には緑が多く、大きな木もあって、落ち着いた感じだと思います。手書きの大きな表札をつけていますが、よく普通の家に間違われています。玄関は、自由に出入りできます。		
81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	リビングや居室は、落ち着いたベージュ系の色合いで、いつも季節の花が飾られている。リビング・食堂はスペースを広く取っているので、思い思いにゆったり過ごせる大きさである。安心されるのか、ソファでうたた寝をする人が多い。		
82	○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中には、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	お互いの関係に配慮して座れるように、椅子の並びを工夫している。		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	写真や使い慣れたものを置いて、居心地よく過ごせるように配慮している。ご家族によっては、かわいらしいぬいぐるみなどで部屋を飾っているところもある。畳敷きの部屋が多く、落ち着いて過ごしていただけたと思います。		
84	○換気・空調の配慮 気になるにおいや空気のおよみがないよう換気に努め、温度調節は、外気温と大きな差がないよう配慮し、利用者の状況に応じてこまめに行っている	気になるにおいについては、換気扇も利用しているが、パッドの交換などに気を配り、さりげなくトイレ誘導するなどしている。温度調節は、エアコンを利用して、利用者の状況に応じてこまめに調節している。		
<b>(2) 本人の力の発揮と安全を支える環境づくり</b>				
85	○身体機能を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの身体機能を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	廊下やトイレには、手すりを設け、移動には、シルバーカーを押ししてもらったり、車椅子の操作を練習してもらうなど、バリアフリーの環境で、自分の好きなところに移動できるようにしている。		
86	○わかる力を活かした環境づくり 一人ひとりのわかる力を活かして、混乱や失敗を防ぎ、自立して暮らせるように工夫している	トイレの場所をわかりやすく表示したり、各部屋の扉には、ひらがなのプレートをかけ、自分の部屋がわかるようにしている。		
87	○建物の外周りや空間の活用 建物の外周りやベランダを利用者が楽しんだり、活動できるように活かしている	畑や花壇を作り、ベンチを置いて、おやつを食べたり、ひなたぼっこをしたりと活用している。		

V. サービスの成果に関する項目		最も近い選択肢の左欄に○をつけてください。	
項 目			
88	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる	○	①ほぼ全ての利用者の
			②利用者の2/3くらいの
			③利用者の1/3くらいの
			④ほとんど掴んでいない
89	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある	○	①毎日ある
			②数日に1回程度ある
			③たまにある
			④ほとんどない
90	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
91	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
92	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
93	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
94	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
95	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています	○	①ほぼ全ての家族と
			②家族の2/3くらいと
			③家族の1/3くらいと
			④ほとんどできていない



項 目		最も近い選択肢の左欄に○をつけてください。	
96	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている	○	①ほぼ毎日のように
			②数日に1回程度
			③たまに
			④ほとんどない
97	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている	○	①大いに増えている
			②少しずつ増えている
			③あまり増えていない
			④全くいない
98	職員は、生き生きと働いている	○	①ほぼ全ての職員が
			②職員の2/3くらいが
			③職員の1/3くらいが
			④ほとんどいない
99	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
100	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	①ほぼ全ての家族等が
			②家族等の2/3くらいが
			③家族等の1/3くらいが
			④ほとんどできていない

**【特に力を入れている点・アピールしたい点】**

(この欄は、日々の実践の中で、事業所として力を入れて取り組んでいる点やアピールしたい点を記入してください。)

できるだけ外出機会を設けるようにし、生活にメリハリをつけ、楽しんでもらえるようにしている。利用者の方が、職員や地域の人との交流を楽しめるよう、日々願いなが